

2022年度　日本工学院専門学校

ミュージックアーティスト科／ヴォーカリストコース

音楽基礎B 1

対象	1 年次	開講期	前・後期	区分	選択	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	田中　綾美			実務 経験	有	職種	キーボーディスト				

担当教員紹介

田中綾美 / ピアニスト、キーボーディスト、ピアノ講師、作編曲家。高校からオリジナル曲で弾き語りをするようになり、　高校生バンド大会YHMFの全国決勝大会に二度出場、横浜アリーナにて演奏する。その後、ヤマハ音楽院に進学し、クラシック、ジャズ、作曲、アンサンブルなどを勉強、Carnavacationとして2017年にキングレコードよりラグビートップリーグのエンディングテーマ　曲をリリース。BS朝日ラグビーウィークリーのエンディングテーマを担当。共演アーティスト(クリスタルキング、杏子、エンリケ、花*花、なかの綾、ワタナベシュウヘイ、Play.Goose、Deni Hines、GAKU-MC、大黒摩季、田島貴男、スチャダラパー、ビッケブランカ...etc.順不同)

授業概要

初回の授業で目標とする声質や音、課題のポイントを定め、最終回の授業で達成度を確認する。ヴォイストレーニングとは身体や響く声を作りあげると同時に、音感も鍛えるものである。簡単な童謡をアカペラで歌唱し、音程やリズムが外れる事の無いように歌い上げるトレーニングも行っていく。□

到達目標

この授業では、毎日1時間の発声を行うとした場合の各自のトレーニングのルーティンを作る。自分の課題に対して足りない部分のトレーニング時間の割合、良い部分をより伸ばして行くための時間配分をどのように組み立てて実践するのか、きちんと説明しながら発表できることを到達目標とする。
初回の授業で目標とする声質や音、課題のポイントを定め、最終回の授業で達成度を確認する。ヴォイストレーニングとは身体や響く声を作りあげると同時に、音感も鍛えるものである。簡単な童謡をアカペラで歌唱し、音程やリズムが外れる事の無いように歌い上げるトレーニングも行っていく。□

授業方法

この授業はグループで行う。我々ヴォーカリストにとって「声」とは唯一無二の楽器であり、声を「響かせる」といったポイントに重きを置いてレッスンを行なっていく。その際に個々の音楽に対してのジャンルや個性を偏らせず、より視野を広げる事を目指す上で、他者の声をよく聞いて分析を行う事で相乗効果を促す。ボイストレーニングの一環で身体の強化、リズムトレーニング、ヴォーカリストとしてのパフォーマンス力の向上の為にダンス教育も行う。

成績評価方法

試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価
平常点	10%	積極的な姿勢

履修上の注意

社会マナーとして常識的な範囲での必要以外のスマホ等の操作は厳禁とする。ヴォイストレーニングはとても繊細で緻密なトレーニングを要している為、他者が確認を行なっている際の会話や授業とは関係ない私語は一切厳禁とする。理由のない欠席は認めない。
飲料を持参する（発声器官の保湿と保護及び、風邪など空気感染症の生徒間感染を予防する）。
ダンスの際には運動できる服装とシューズ、タオルを持参する。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。

教科書教材

毎回授業にて資料配布を行う
参考書・参考資料等は授業中に指示をする

回数	授業計画
第1回	一人ずつ歌い、個々のボイストレーニングでの目標を決める。
第2回	一人ずつ歌い、個々のボイストレーニングでの目標を決める。
第3回	腹式呼吸を理解し、丹田を意識することが出来る。
第4回	腹式呼吸を理解し、丹田を意識することが出来る。
第5回	ハミング、リップロール、表情筋を習得する。

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／ヴォーカリストコース	
音楽基礎B 1	
第6回	ハミング、リップロール、表情筋を習得する。
第7回	喉開けを理解して共鳴を習得する。
第8回	喉開けを理解して共鳴を習得する。
第9回	エッジヴォイスを習得し、共鳴との違いを理解出来る。
第10回	エッジヴォイスを習得し、共鳴との違いを理解出来る。
第11回	裏声とは何かを理解し共鳴を習得する。
第12回	裏声とは何かを理解し共鳴を習得する。
第13回	裏声とは何かを理解し共鳴を習得する。
第14回	裏声とは何かを理解し共鳴を習得する。
第15回	ここまでのトレーニングの成果を理解出来る。